

C F T ニュース & 息抜き（８月）

全日本コーヒー公正取引協議会（コーヒー公取協）に寄せられた問い合わせなどを、トピック形式で毎月リリースします。参考になれば幸いです。

１．２０２６年７月の気になる問合せ

（１） ○○社である。この度、韓国からレギュラーコーヒーを輸入・販売することとし、東京都に表示について電話したところコーヒー公取協に聞くように言われ電話した。幾つか質問がある。教えて欲しい。

① 裏面表示であるが、「製品名：レギュラーコーヒー（豆）」、「原材料名：コーヒー豆」、「生豆生産国名：コロンビア、ブラジル、他」、内容量、賞味期限、保存方法、使用上の注意、を考えている。何か不足はあるか。

② 栄養表示はどのようにすればよいか。

③ カフェインレスコーヒーの輸入も検討しているが何か注意すべきことがあるか。

⇒ ①について

裏面表示は一括表示のことと思うが、「製品名：レギュラーコーヒー（豆）」、「原材料名：コーヒー豆」（生豆生産国名：コロンビア、ブラジル、他）、内容量、賞味期限、保存方法、使用上の注意、を記載されるとのことだが、これに加え「原産国：韓国」と輸入者である御社の企業名及び住所を記載していただきたい。

②について

レギュラーコーヒーの栄養表示は義務表示の対象でなく任意である。表示する場合は抽出物でなく、コーヒー粉ベースの栄養表示を記載されたい。

③について

コーヒー公取協は、コーヒー公正競争規約において、コーヒー生豆に含まれるカフェインの90%以上除去したものをカフェインレスとかデカフェと称することができるとしている。

御社はコーヒー公取協会員社でないで、コーヒー公取協のカフェイン除去率は適用されないが、カフェインは英国食品基準庁（FSE）や欧州食品安全機関（EFSA）は妊婦や母乳経由で子供に悪い影響を与えることがあるとしているので、御社で輸入されるコーヒーのカフェイン除去率を調べて販売されるのがベターと考える。

過去に韓国から輸入したカフェインレスコーヒーに、カフェインが50%程度残存しており、カフェインレスコーヒーと称するのは問題ないかという相談が当方にあったが、現在、日本で販売されるカフェインレスコーヒーの多くは99%程度除去されていると考えるので、自社（委託分析含む）で分析し消費者トラブルが起きないようにしたい。

（２） 全日本コーヒー商工組合連合会会員社であるがコーヒー公取協には加盟していない。

顧客より、コーヒー粉にハッカ粉末を入れた製品を求められている。製品名称を「レギュラーコーヒー（ハッカ入り）」としたいがどうか。本件について消費者庁に聞いたところ、コーヒー公取協へ聞くよう言われたので電話した。

⇒ コーヒー公取協への問合せなのでコーヒー公正競争規約に従った表示として説明する。

コーヒー公取協は、レギュラーコーヒーはコーヒー100%としており、ハッカ粉末を入れた製品についてはレギュラーコーヒー名称を使用しないこととしている。当方会員社は問合せのような製品は「コーヒー調整品」又は「フレーバーコーヒー」などと称しているのでないか。御社は会員社でないで適宜名称を考えられたい。

原材料表記は「原材料：コーヒー豆、ハッカ」とされてはどうか。

2. コーヒーを巡るいろんな状況

トランプ氏のイラン攻撃は5か月前に始まり未だ終わりをみせない。この状態が続くとインフレも終息しないだろう。勤労者も年金生活者もインフレの被害者である。米国政府倫理局の発表によるとトランプ氏は昨年14億ドルの収

入を得たとのことである。インフレはこの方の生活には何ら痛痒を与えないということだろう。ファミリーで見るともっと多額の収入を得ているとの報道もある。日本人の常識では為政者が在職中に途方もない収入を得ることはありえないことであるが、アメリカンドリームの家では許されることなのだろう。先日、NHK がクローズアップ現代で不動産業者が寺や納骨堂を買い、納骨された骨壺を勝手に処分していることを報じていたが、不動産業者は骨壺は単に商品である、との趣旨で話すのには大きな違和感を持ったが、トランプさんも不動産事業者であるから何よりも金が優先なのだろう。

コーヒーの国際価格はブラジルの増産予想でニューヨーク相場は下げていたが、収穫時の大雨などの影響で反転しポンド当たり 300 セント台半ばに戻っている。投機筋の動きとは言え値動きが激しすぎる。CFT 子は昔、油糧業界を担当したが、シカゴ大豆相場で商社の担当者の苦労をよく見た。農産物相場は天候という予測不能な要因に支配されている。いろんなファクターを集めて大当たりということもあろうが、14勝1敗でポストを追われる例もみてきた。相場は怖い。それだけにニューヨークのコーヒー相場がどのような悲喜劇をもたらしているかと思うと落ち着かない。

今年の8月も猛烈な暑さである。CFT 子はコンビニでサラダを購入するが、気になるのは以前に比べアイスコーヒーの購入者が少ないように見えることである。節約志向のなせるわざかもしれないが、コーヒー豆、氷、プラ容器などの値上がりを考えると価格上昇なくてはお店も提供できない。プーチン氏やトランプ氏の無責任な行為が世界の大衆を苦しめていると言って過言でない。

コーヒー生産国の生産者は、生産量を増やすため定期的にコーヒー樹の改植に取り組む、改植はコーヒー価格の低いときに行うことが多いようである。最近のようにコーヒー価格が高いと改植に取り組むまいであろう。CFT 子は百姓の息子であるので、Farmer の気持ちは理解できる。中南米の農家には Peasant が多いようであるが彼らも改植をしているのだろうか。昔、ブラジルで見た農場主と農業労働者の関係を見た限りでは期待できないが、時が変えたかもしれない。

人は皆同じと思うが、健康に生きたいと思っていると考える。先日、CFT 子の女房殿は和歌山のこめ油メーカーの社員がご飯を炊くときにこめ油をお釜に入れて炊き、それを食べる社員諸子の健康データが良い、という番組を見て我が家のお釜にこめ油を入れて炊くようになった。健康情報の力は大きい。この番組を見た方の中にはこめ油を購入された方がそれなりにいると思う。こめ油の原料は日本のお米という重要性より、健康効果の方が消費者へのインパクトとしては強いのだろう。

(2026年8月4日記)